

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /

603粉碎-才2波追撃 3・2総決起集会へ

三里塚「3・24」五割決起

才一波の勝利の上 更なる三里塚・国鉄実力反撃へ

動労千葉は、2・20 / 21断固として非協力・安全確認行動を闘いぬいた。「闘わざる屈服」をせまる反動中曽根、国鉄当局の攻撃をはねのけ闘われたこの闘いこそ、「国鉄と三里塚を基軸に反動中曽根と対決する労働運動」の真骨頂であり、一切の暗雲をふきとばし、全国の国鉄労働者に闘いの方向と展望を指し示した。この成果を突破口に国鉄決戦勝利へ向け、3・2動労千葉総決起集会の圧倒的成功をかちとろう。

切り拓いた地平を守り、さらに発展させよう

全支部の総決起で闘いぬかれた第一波闘争は、第一に、「60・3ダイ改」を労働者の反対・抵抗を一切排除し「提案したものはまちがっている」と一歩も譲らない」という姿勢で強行突破せんとした政府・国鉄当局の目論見を粉碎し、第二に、中曽根の「戦後政治の総決算」攻撃の迫力に圧倒され、国鉄「再建」論議にまきこまれ、「60・3」について何の方針も示しえない国鉄労働運動の状況を、職場・生産点からの実力決起で突き破り、闘いの方向性と展望を切りひらいた。

そして第三に、全組合員が整然と指令通りの行動を貫徹し、当局の現認・妨害闘争圧殺体制を粉碎して闘いぬくことを通し「80年代後半を闘える労働運動」へ自信を深めたのであった。

第四に、われわれはこの闘いで、①政府・国鉄当局の国鉄労働運動解体攻撃に痛打を与え、②国鉄労働者の敵対当局の手先「動労」本部「革マル」の裏切りと屈服を決定的に突き出し、③今日の情勢下で苦闘する全国の闘う国鉄労働者に限りない勇気と闘えば勝利の展望が切り拓けることを自ら闘うことを通して示しぬいた。

われわれは、この闘いの意義に踏まえ、動労千葉の闘う路線にますます確信を深め、今後の「60

3」阻止の闘いを不退転の決意で闘い「戦闘的国鉄労働運動の再生」・「三里塚を闘う労働運動の高揚」を基軸に、首切り「三本柱」粉碎・「分割・民営化」阻止へさらに突き進もう。

3・2の大結集をバネに、3・24三たびの五割動員を実現しよう

反動中曽根は、「60・3」を突破口に7月再建監理委員会の「分割・民営化」本答申の発表・国会での承認・過員対策の立法化、本格的な首切り攻撃、国鉄労働運動解体をもつて、87年「分割・民営化」へと一気に突き進もうとしている。

これは、国鉄と三里塚で労働者人民の闘いを叩きつぶすことを通して全労働者人民を権力の意のままにおさえつけ、戦争と暗黒の時代へひきずりこもうとする攻撃である。

われわれは、この反動と断固対決し闘いぬき、勝利の展望を指し示したのである。

この成果に踏まえ、全国の国鉄労働者に呼びかけ開催する3・2動労千葉総決起集会の圧倒的成功をかちとり、3・24決戦の三里塚へ三たびの5割動員を実現することこそ敵をさらに追いつめ闘いの成果を不動のものとし、勝利を保証するものである。

猛然たる決起をつくりだそう。
* 三月二日 17時半 千葉市中央公園へ

「81・3ジェット闘争」が4回公判 屏がる(2/6) — 山口・水野・西森・吉岡4執行委員の解雇は不当だ!

2月6日、千葉地裁四〇一号法廷で、81年3月ジェット燃料輸送期限延長阻止闘争を指導した理由をもつて公労法で不当解雇された、山口副委員長、水野副委員長、西森交渉部長、吉岡総務部長の雇用存在を確認する第14回公判がたたかわれました。この日の公判は、法廷内で動労千葉組合員40名が見守るなか、当局側証人・斉藤が出廷しました。斉藤は、「81・3」闘争の前段でたたかわれた81年2月19日からの佐倉機関区で

の助役機関士線見阻止闘争の際に、現認班としてテープレコーダーを体にひそませ、処分の口実を見つけるための情報収集をやっていたことを証言しました。組合側弁護人の「なぜ、吉岡、西森のみ現認したのか。最初から処分を狙っていたのではないか」との追及に対して斉藤はメモロメロになり、当局の狙いうち処分の不当性をバクロしてしまいました。

つ頃から話しがあったのか」の間に「80年の秋頃」と証言し、「期限延長提案（81年1月8日）以前に助役機関士導入を予定するという団体交渉無視—組合敵視の不当性と闘争破壊の反動的目的性が明確にされ、勝利的にたたかぬかれました。6月5日に予定されている次回公判では、成田運転区での線見阻止闘争の現認者・渡辺への反対尋問が行われます。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!